



- 1 | 玄関からゲストルームやリビングに至る廊下にラバトリーを設置。ゲストが気を遣わずに利用できるよう配慮しました。
- 2 | リビングはニュートラルなアイボリーがテーマカラー。一部を吹き抜けにした天井は、大開口とともに光の取りこみ口となっています。
- 3 | 2階へと誘う階段には、独特のデザインの無垢材の手すりを設置。
- 4 | 木を多用しながらも洗練された雰囲気仕上がっているのは、J夫妻の卓越した美意識の賜物。正面のウッドの壁の奥にはスタディコーナーを設けています。
- 5 | まさにホテルのような調度。無垢材とブルーが織りなす上質な雰囲気が癒しを与えてくれます。

作業そのものは、自分たちの考え方や好みの世界観を理解してもらうことからスタート。東京と愛媛を何度も往復し、セッションを重ねていきました。確かに時間も労力もかかりましたが、そのプロセスは非常に楽しく、刺激的なものだったと話されます。また、東京では、収納やラバトリーを邸内の必要な場所に、必要なだけ設けた欧米人のために設計した家に住んでいたのですが、白川建設の社長に何度も東京の住まいへ来ていただき、その考え方を新居に取り入れることなどもオーダーしました。

そんな計画を早めるきっかけとなったのは、東日本大震災。「多忙な日々をおくる私たち夫婦に、仕事との関わりなどこれからの来し方行く末を見直させてくれませんか。愛媛で暮らす両親を身近でサポートしたいというのも後押しになりました」と主人。そんなJ夫妻の想いを受けとめたのは、新居浜を拠点に、木にこだわり、匠としてたくさんの施工を手がけてきた白川建設。「私たち自身が自然素材へのこだわりが強く、家を作るのなら、木の住まいを」と考えていたのですが、この白川建設の社長の木の使い方はとにかく普通じゃなかったんです(笑)。これまで国内外の様々な名建築を目にし、著名な建築家も知っていますが、ここまで木にこだわって空間をつくっている方はいませんでしたね。その建築会社の中から、特にJ夫妻を感動させた住まいを手がけた大工さんを指名し、建物本体はその方一人の手で仕上げてもらいました。

地元で信頼を構築している
木にこだわった匠集団
白川建設に依頼

